

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：農業活性化研究センター研究費（担当：農業活性化研究センター）

No.	ご意見	対応等
1	薬用植物栽培などは、農家以外の家庭菜園を趣味にしている方から少しずつでも栽培してもらい、買い上げる仕組みを作ってはどうか。地域のネットワークづくりや食育の観点にもつながる。	<p>薬用植物栽培は、トレーサビリティが厳しいため、農業者ではない一般の方が少量出荷を行い、それらを集めて一つのロットとして扱うのは、受け入れるメーカー側としては、均一性にかけるため、農産物（農業）として買い上げるのは無理であると思われます。</p> <p>地域コミュニティのなかで、薬用植物を扱うことはできると思いますが、食薬区分や毒性も考慮しないといけないので、家庭菜園等で野菜を楽しむ食育につながるものが最善と思われます。</p>
2	畑や花づくりをしている個人も多い。主婦やひきこもりの若者なども巻き込み、地域の活性化のために、社会貢献的な分野のテーマも加えて検討してほしい。	<p>農業と福祉（現在は障がい者福祉）を連携して、農業の雇用創出という観点を中心に事業を行っています。</p> <p>社会貢献的な分野での農業の活用については、「12次産業化」を推進する中で検討していきます。</p>
3	農業活性化研究センターの研究成果を隣接のアグリパークの活動に反映させてはどうか。アグリパークを通じて農業活性化研究センターをPRすることで、若者や子育て世代にも広報でき、後継者や労働力確保にもつながるのではないか。	<p>アグリパークは、伝統野菜のPRなど農業活性化研究センターで行っている取組の一部を紹介する場として活用してきましたが、今後は、6次産業に関する成果についても、食品加工支援センターと連携して、PRしてもらおう場づくりを進めていきます。</p> <p>また、改訂「アグリ・スタディ・プログラム」にも、農業活性化研究センターの見学プログラムを載せ、子どもたちにもPRする機会を設けています。</p>
4	もっと広報に力を入れた方が良い。農業活性化研究センターの存在自体が、南区以外に認知されていない。	<p>農業者のための研究施設として、各区役所の産業振興担当課やJAと連携し、試験研究課題の抽出を行っていくことで、農業活性化研究センターを広報していきたいと思っています。</p>

No.	ご意見	対応等
5	果物の皮をむけない子どもが増えている。皮付きの果物などは消費が減少しているのではないか。果物の販売増につながるため、皮が楽にむけるものを他の国より取り入れ、国内で生産できるよう開発してはどうか。	<p>需要があり農家の収入に結び付く品目であれば導入を検討する必要はありますが、現状で輸入できている果樹を、あえて国内栽培を行うために開発すべきかについては、コストも含め検討が必要です。</p> <p>食育の一環として、地域で生産される皮をむいて食べる果物のおいしさを教えていくことが重要と考えます。</p>
6	研究成果である知的所有権を収入に結び付けるのは難しいと思うが、その点も検討して行ってほしい。	知的財産（知的所有権）は、必ずしも収入に結び付くものとは限りませんが、今後、収入に結び付く事象がありましたら、検討していきたいと思えます。

■その他のご意見

- ・機械化や大規模化に乗れない多くの農家をどう取り込むかだと思う。
- ・花の種類が少なくなる夏場などに、品種が増やせると良いと思う。
- ・店頭では、生産者がわかるようにするなど、表示を工夫することで安心して手に取ることができる。販売店への指導もしていくと良いと思う。
- ・障がい者の農作業訓練などは、良い取組なのでぜひ力を入れてほしい。